



故矢野義男氏（享年85歳）
平成11年12月29日逝去

河川審議会専門委員
河川審議会委員
砂防学会会長
信州大学工学部講師
日本大学理工学部講師
岩手大学農学部講師

昭和59年4月 勲3等瑞宝章受賞

故矢野義男氏略歴

大正3年1月1日生

昭和13年3月 京都帝国大学農学部農林工学科卒業

昭和13年4月 宮崎県採用

昭和27年5月 長野県土木部砂防課長

昭和30年8月 建設省河川局防災課災害査定官

昭和36年6月 建設省河川局砂防課長

昭和37年4月 建設省河川局砂防部長

昭和41年2月 建設省退職

昭和41年2月 社団法人全国治水砂防協会参与

昭和47年9月 社団法人全国治水砂防協会理事

昭和50年7月 財団法人砂防・地すべり技術センター理事

昭和56年8月 財団法人砂防・地すべり技術センター顧問
(～平成11年12月29日)

昭和61年2月 社団法人全国治水砂防協会常任理事

平成9年5月 社団法人全国治水砂防協会顧問
(～平成11年12月29日)

矢野義男さんを偲んで

廣住富夫（(財)砂防・地すべり技術センター元理事）

大先輩の矢野義男さんの訃報に接し、私は思わず息をのみ、嘆息した。「寂しくなるばかりだなあ」と。実は、ここ数年来、矢野さんよりも遙かに若い砂防界の重鎮が次々と亡くなっているから、尚更そう感じた。

矢野さんは砂防旧交会のときは常に、その鶴を想わせる長身の瘦軀をあらわし、孤高を保つ風情をもっておられた。もう二度とその姿を見ることができない。残念至極である。

矢野さんは非常に沢山の書物を読みこなしておられ、引退後も砂防関係の機関誌まで目を通しておられたようだ。私はある日の旧交会の席で、矢野さんに突然声をかけられ、「廣住君、まあ、そう怒るなよ」と言われ、続いて、アッハッハ……と先生独特の乾いた笑い声で笑いとばされたことがある。一瞬なんのことやら(?)

と思ったが、すぐ気がついた。これは私が何かに書いた技術評論の辛口加減に対する冷やかしの同意を表明する発言であった。筆者にとって、読者がいてくれたことは有難いことであり、また、矢野さんに読んでもらったことは光栄でもあった。

矢野さんは議論のときなどに当事者や関係者の話をじっくり聞いて、暫定的な中道的な解決法を示唆するのが上手だった。妙手を編み出されたように感じている。こういう類型に属する戦前派の先輩はもう殆どおられなくなった。寂しい限りである。残念！こういう平凡な言葉しか出て来ないのが、われながら情けない。

はからずも、意外に早く幽明境を異にすることとなり、今はただ御冥福を祈るばかりである。